



学童での活動の様子（ドルチェ学童クラブ）

問 今年度の待機学童数は何人か。

副町長 5月1日時点で、待機学童数は104人である。その後、第2または第3希望の学童クラブに入れたり、児童館を利用するなどしておおむね解消されている。

問 今後、学童クラブ新設のニーズが発生した場合、小学生を預かる放課後児童クラブと保育所を同じ施設で一体運営する多機能型も有効ではないか。



大宜見 洋文 議員

待機学童は どうなっているか

答 おおむね解消されている

こども課長 まだ国から事業内容が示されていない。示され次第、内容を確認する。

「通級学級」について

問 通級学級とは何か。

教育長 軽度の障がいのある児童生徒に対して、障害の状態に応じて特別の指導が行われることである。

問 希望しても通級学級に入れない児童は各学校にどれぐらいいるのか。

教育長 平成29年度は40人中、合計30人が通級学級へ通級できていない。しかし、普通学級で支援員の配置や特別支援教室で通級学級と同様に対応をしている。

問 施設の増設や改築も財政面で厳しい。さらに多様性に向かう社会現状も踏まえると、障害のある子もいない子も通常学級で学ぶ※インクルーシブ教育に向かうべきではないか。

教育部長 インクルーシブ教育について、本町は県内でも早い段階から支援員を配置している。通常学級で皆と一緒に勉強して、また別の時間に支援学級も活用し、その子に合った教育環境を整えている。

問 障害を抱えていない他の児童や保護者に対するインクルーシブ教育も必要ではないか。

教育部長 障害のない子の保護者に対してもそういった認識が高まっていると理解している。

※インクルーシブ教育とは

障害のある子どもを含むすべての子どもに対して、一人一人の教育的ニーズにあった適切な教育的支援を「通常の学級において」行う教育のこと。

こんな質問もしました

○農業購入に対する農家への助成金について

○はえはる大学について